

「八代海再生プロジェクト」が進んでいます

八代海を再生するための研究プロジェクト「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」が、文部科学省の特別経費で平成23年度から5カ年間の計画で、滝川清教授をリーダーとして沿岸域センターの教職員を中心としたスタッフで鋭意、進められています。

シンポジウムの開催

平成25年2月2日(土)、やつしろハーモニーホールを会場に、“八代海の再生をめざして～大学、市民等の協働による八代海再生の取り組み～”のタイトルのもと、熊本県との共催によるシンポジウムを開催しました。第1部は熊本県の担当により、「八代海再生に向けた市民、熊本県などの協働の取り組み」の表題で、やつしろ里海ネットや八代農業高校などの3つの実践発表、「有明海・八代海の再生にむけて」と題して、熊本県と国土交通省熊本港湾による2つの出前講座が行われました。また、「くまもん環境〇×クイズ」では、くまもん登場で会場が大いに盛り上がりました。第2部では、「大学の研究紹介」の表題で、研究プロジェクトの内容と研究成果を、「再生技術の開発と実証」「環境変動の評価と予測手法の開発」「八代沿岸域における社会・自然環境の把握」「八代海の未知事象の解明」の4つのテーマに分けて報告しました。約200名もの来場者があり、関心の深さとプロジェクトへの期待の大きさに溢れた有意義なシンポジウムとなりました。



「八代海の再生をめざして」シンポジウム会場

「なぎさ線」現地実証試験地の造成

本研究プロジェクトの一環である「再生技術の開発と実証試験」として、八代港内の一角に「なぎさ線」が、平成25年2月上旬に造成されました。これは、海岸線の人工化などで失われた“なぎさ線”を回復し、連続した地形を造成して、土・水・大気の触れ合う場を作って、生態系の連続性を創出する事を目的にしています。むつごろう通信の19号でも報告しましたように、有明海の研究プロジェクト研究で明らかになりましたが、“滝川教授が提唱している「なぎさ線の回復」が貧酸素水塊の制御や生物の増加などに最も効果的である”ことに基づき、八代海でも実証試験を行うものです。今後、生態系を含めた、様々な追跡調査を計画しております。皆さまのご支援とご協力をお願いします。

また、「八代海再生プロジェクト」では、研究は大きく4つの分野、①再生技術の開発と実証、②環境変動の評価と予測手法の開発、③八代海沿岸域における社会・自然環境の把握と未知事象の解明（3.1沿岸及び海域環境の把握、3.2未知事象の解明）、④地域ごとの再生策の検討及び環境と防災の調和した八代海の再生・創成方策 の4分野にわたり全体では14テーマから構成されています。これらの多くの研究をテーマにして、スタッフ一同、強い熱意を持って取り組んでおります。研究成果は随時、下記のホームページに掲載致しておりますので、是非ご覧いただきたく、ご案内致します。

http://accafe.jp/kumamoto_u_yatsushiro/



「なぎさ線の回復」現地実証試験地